

一 般 質 問 通 告 書

令和 7 年 1 1 月 2 5 日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 9 番 是永 宙

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が 2 以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・ 質問番号 1 の用紙にだけご記入ください。
- ・ 質問が一つだけの場合は必然的に 1 となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1) 発 言 事 項	社会教育を核とした若者参画・定着のまちづくりについて
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
<p>社会教育をまちづくりに活かすことは、地域の人々が学びを通じて主体性や協働の力を育むことにつながります。子どもから大人まで多様な住民が課題を共有し、解決に向けて行動する土台が生まれるため、地域の活力が高まります。また、学びの場は新たなつながりや地域への愛着を育て、人口減少局面でも地域の担い手を育てる重要な役割を果たします。こうした住民主体の学びと実践が循環することが、強い地域づくりの鍵となります。高島市でも人口減少や若者流出、地域の高齢化、地域コミュニティの希薄化が課題となっており、その課題に対応するためにも社会教育を核としたまちづくりは重要だと考えます。</p> <p>今年度、文教福祉常任委員会で鳥取県の南部町に行政視察しました。南部町では社会教育である地域協働学校(コミュニティ・スクール)を通じて、地域住民が教育を支えるだけでなく、教育を通じて子ども若者が地域づくりに関わる仕組みがつくられています。以下、南部町の取り組みを簡単に紹介します。</p>	

南部町では町独自のカリキュラム「まち未来科」をつくり、年長から中学3年生までの10年カリキュラムを実践されています。「まち未来科」によって育まれた郷土への愛着や企画力・行動力を活かす目的で高校生サークル「With you 翼」が立ち上げられ、スマホの使い方講座などの講師、南部町「さくらまつり」でのさくら餅の製作・販売、町内小中学生の居場所づくり等、さまざまな地域活動に高校生がかかわり、活躍しながらその力を地域に還元する存在になっています。

そして、高校生サークルの出口として新青年団「へん to つくり」が立ち上げられ、団員の「やってみたい！」という思いを実践する場として機能しています。休耕田をいかした餅米づくり、成人式企画、交流事業などを自主的に企画・運営、グローバルな視点(地域を大切にしながら世界ともつながる視点)を持つ人材育成にもつながっています。地元に残る若者はもとより、町外、県外に出て行かれた若者も加入され、現在は70名程が活動されているとのことでした。

また行政や地域づくりをテーマに、若者(高校生サークル、新青年団など)と行政(町長、副町長など)が直接意見交換を行う対話形式の「伸びのびトーク」も開催し、若者の声をまちづくりに反映させることを目的とした取り組みもされています。

このように南部町では保育園から社会人までの取り組みを循環させ「安心して子育てできる街」を目指されており、実際に人口動態では社会増に転じており、一定の成果を上げていると考えられます。高校卒業後の若者流出の多い本市にあっては、高校生から青年期の若者を地域社会の当事者として活躍できる機会の創出など、義務教育以降の社会教育事業の充実が重要だと視察を通じて感じました。

問1 高島市における若者層の地域離れの課題について

高島市では、高校進学を機に市内外の高校へ通学し、地域との関わりが希薄になるという課題があり、さらに高校卒業後の進学・就職を機に、市外に転出する若者が多く、地域との関係性が途切れてしまうことが大きな課題となっています。

南部町のような高校生・青年期へとつながる社会教育の体系を構築することは、本市における若者の定着や関係人口の維持に有用であると考えますが、高校生や若者が地域で活躍できる仕組みづくりについて、どのように課題を認識しているのか問います。

問2 高島市における高校生の地域参画拡大について

南部町の高校生サークル「With you 翼」では、高校生が地域講師として活動し、スマホ講座などを行っています。高校生は新たな知識や技能を有しており、地域の活力として活躍できる大きな可能性がある一方で、自主的に地域参画できる組織がなく、図書館、公民館などの事業にも高校生が参画する枠組みがほとんどありません。

南部町の高校生サークルのような、高校生が自分の得意を活かして地域活動に関わり、地域で活躍する場の創出を検討してはどうか。

問3 若者の地域参画の受け皿である青年団のサポートについて

南部町の「新青年団」は、青年期の若者が地域に参画する大きな受け皿となっています。特筆すべきは、「町外や県外に住む若者も登録し、関係人口化している」という点であり、本市が抱える若者流出に対して示唆をあたえるモデルです。大学進学や就職で一度市外に出た若者が、多様な形で地域とつながり続ける仕組みをつくることは重要だと考えます。

高島市でも、青年団は活動しておられ、様々な地域活動に参画しておられますが、近年は団員数の減少が課題になっていると聞いています。これまでの青年団活動を発展させる形で、若者の地域参画の受け皿となるように青年団活動をサポートすることも有効だと考えるが見解を問います。

問4 総合的な「若者循環型社会教育モデル」の構築について

本市は、市民協働の拠点施設や NPO、図書館ネットワークなど、南部町にも劣らない地域資源があります。しかし、それらを「若者の学びの循環」として束ねる政策が十分ではあり

ません。また、高校生と地域の人とが仕事のことで語り合う「Work Life Story Expo」や安曇川高校の地域連携による探求学習などの取り組みがありますが、さらに体系だった取り組みに発展させていくことが必要と考えます。南部町のような「子ども→高校生→若者→子育て世代」へとつながる社会教育モデルを構築するためにも、教育委員会と市民生活部などの市長部局とが連携した取り組みが重要と考えますが、見解を問います。